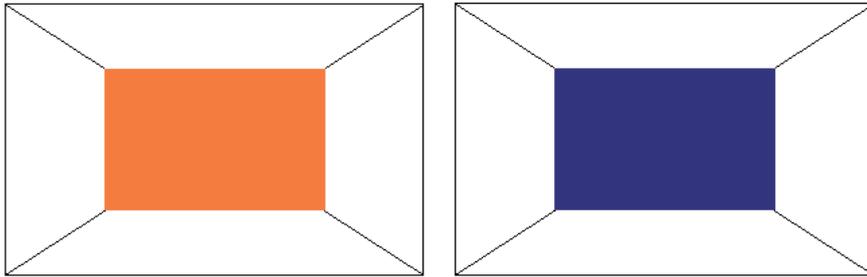


『魅せる』『伝わる』色彩コミュニケーション!!

色にどんな影響をうけている？

私たちは日々たくさんの色に囲まれ、色に心理的・生理的影響を与えられていることをご存知でしょうか？例えば、人は同じ温度でも暖色（赤・橙など）の方が、寒色（青や青緑など）に比べて温かさを感じます。色はただの色として認識されていると思いがちですが、実際は人の心や気持ちに大きく影響しているのです。色は文字とは違い見て感じるものなので、自分でも気づかないところで様々な影響を受けている可能性があります。

そこで今回は、色に影響される心理・色の錯覚についてご紹介します。



左の図のオレンジは前に飛び出して見え、右の図の青は後ろに引っ込んで見えませんか？赤・橙・黄など暖色系の色は進出色と言って、前方に飛び出して見える効果があり、青などの寒色系の色は後退色と呼び、遠ざかっていくような見え方をします。つまり、色によって自然と奥行きが変化して見えるのです。

例えば・・・

同じ部屋でも、壁紙の色が変わるだけで空間の広さの感じ方が変わってきます。

狭く感じる



広く感じる



他にも、色には興奮感や沈静感を与える働きがあります。一般に暖色系の彩度の高い色に興奮感を覚え、寒色系のやや彩度の低い色に沈静感を感じます。例えば、スペインの闘牛士が赤い布で牛を挑発していますが、あの赤い布は牛のためではなく観衆のために用いているそうです。牛は赤色を見極めることができないと考えられていて、どんな色の布でも牛は同じ動きをします。しかし観衆の方は真っ赤な布に興奮感を誘発させられるため、その影響で場内が盛り上がるという効果が生まれるそうです。



興奮色



鎮静色

この様に、暖色と寒色を上手に組み合わせるだけで、遠近感や気持ちを昂らせたり落ち着かせたりすることができるので、チラシやお便りなどを作る際に、**強調したい部分を進出色&興奮色である暖色系の色を使って目立たせると効果的です。**

色というのは言葉で伝えるのとは違い、見て感じた印象をそのまま素直に受け止められることが多いので、これらの色から受ける効果を利用することで、印象に残るデザインを作る事ができるのではないのでしょうか。

デザインの種

今回のテーマ：
「印象の違いを見てみよう」

色は様々な印象・錯覚・感情を与えられていて、これらの効果は広告やファッションなどあらゆるところで使われています。色によってどんな印象を受けるのが実際にやってみましょう！

下の2つのポスターは1箇所色を変えただけで、それ以外は全く同じデザインですが・・・



青は後ろに下がって見え、誠実・冷静・クールといったイメージがあります。興奮を抑え、冷静にさせる効果がある青はセールなどには不向きな色です。

どちらが印象に残るでしょうか？

赤は前方に飛び出して見え、情熱的・エネルギッシュと言ったイメージがあります。エネルギッシュな赤は衝動買いを促す効果があるため、使用することで購買意欲がUP!



この様に、「購買意欲を高めたい」「にぎやかで活気があるように見せたい」という目的の物には、『暖色系』の色を使ってみましょう。

それでは逆に、『寒色系』の色を使う時はこういった目的の時なのか、例を見てみましょう。



「誠実さ」や「冷静さ」などを連想させることから、塾やスクールなどのチラシや、静かさを注意喚起するポスターなどに使うと効果的です！

伝えたいイメージに合わせて暖色系・寒色系の色を使い分けると、色で人を誘導できてしまうかもしれませんね！

イロイロ雑学

「青と黒」？ それとも「白と金」？

数年前に英国人女性がブログに投稿して話題になった有名な画像。ドレスの色が人によって「青と黒」か「白と金」かに分かれる不思議な現象が起きることから、世界中で大きな議論を巻き起こしました。人間は周囲の状況が変わっても同じものは同じ色に見えるように脳内で補正を掛けています。しかし写真やイラストでは環境光がよくわからないことがあり、脳が間違っって補正をかけてしまうことがあります。この色の錯視が原因で不思議な現象が起こったようです。

実際は「青と黒」でデザインされた右のドレス、あなたはどちらの色に見えましたか？



色彩を使った印刷物で、より良いコミュニケーションを！

次回も

Let's カラコミュ!!